

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月24日実施)	総合評価 (3月27日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①主体的・対話的で深い学びを実現するとともに、ICTの活用を通して基礎学力を伸ばす。 ②「福祉の心」を育み、他者と協働して地域社会に貢献し、共生社会の実現に資する人材を育成する。	①学校DXの推進を通して、生徒が学習に対して主体的に取り組み表現するなどの、深い学びの方策を検討し、構築する。 ②福祉に関する教育活動をさらに充実させ、「他者を思いやる力」「他者から学ぶ力」「他社と協働して地域社会に貢献する力」を身に付けさせる。特に、同敷地内にあるデイサービスセンターとの交流の充実を図る。	①学校DXに必要な環境を整備し、校内外の教育資源やクロームブックを積極的に活用し、基礎学力を伸ばさせ、表現力を育成する教育方法を検討し構築する。 ②専門福祉、総合的な探究の時間、選択科目、課外のボランティア活動など、福祉に関する教育活動の機会を多く設定する。また、デイサービスセンターとの交流の機会を増やす。	①クロームブックを有効に活用する環境整備を進めることができたか。クロームブックを活用することにより、表現力等を育成することができたか。 ②生徒が福祉に触れる機会を多く設定することができたか。デイサービスセンターとの交流機会を増やすことができたか。	①学校DXを活用した授業が増え、分かりやすい授業を実践することができた。また、全学年で総合的な探究の時間などでスライド作成とその発表を行うことで、表現力を育成した。 ②ランチ交流の参加者は、50名となった。アドバンスタイムや部活動の生徒を中心に行事に参加している。また、月に2回程度校内散策や授業参観を利用者にしていただくことで、昨年度よりも交流機会が増えた。	①各教室に電子黒板が配備されたことで、職員間で利用方法の情報交換を行うとともに、講習会等を企画する。 ②行事に関しては、特定の部活動だけではなく、より多くの生徒が参加できるような取組を行う。ランチ交流の機会を増やすことで、生徒の学びを深めていく。	①学校DXの推進において、調べ学習やグループ学習のプレゼンテーションを行わせるなど表現力を育成している。また、クロームブックの活用により、課題の配信、提出が行われ、スムーズな学習活動が行われている。 ②デイサービスセンターとの交流では、文化祭、ランチ交流、七夕飾りつけ、クリスマス会などが行われ、生徒にとって利用者との触れ合いがあり、コミュニケーション力を高めることができていた。また、利用者にも大変好評であり、継続してほしい。	①学校DXに関しては、クロームブック、プロジェクター、電子黒板などの活用により、生徒の深い学びにつながる授業ができていた。 ②綾瀬西デイサービスセンターとの様々な交流により、「他者を思いやる力」「他者から学ぶ力」「地域と協働して地域社会に貢献する力」を育てることができた。今後は、綾瀬西デイサービスセンター、綾瀬市、地域の団体等との交流をさらに活性化させる必要がある。	①組織的な授業改善を今後も継続し、具体的な学校DX推進の方法について、検討を続ける必要がある。また、電子黒板について、効果的な活用ができるように組織的な授業改善を進める。 ②生徒への周知を継続して、綾瀬西デイサービスセンターとのランチ交流会をより多くの生徒に広げていきたい。
2 生徒指導・支援	①生徒の自己指導能力と他者を尊重する姿勢を育成し、問題行動の未然防止を図る。 ②生徒の特性を多面的に理解し、生徒の特徴や教育的ニーズに即したより適切に必要な支援体制の充実を図る。	①生徒の自己指導能力と他者を尊重する姿勢を育成するために、日常生活・集会・学年での講演会等あらゆる場面で他者を意識した行動・言動の理解・浸透を図る。 ②SC、SSW、スクールメンターや外部機関との円滑な連携を図るとともに、適切な連携先の周知、共有を行い、職員全体で活用できる教育相談体制の充実を図る。	①学校生活におけるルールを浸透させるとともに、交通安全教育については、日ごろのクラスでの呼びかけを含めた教育活動をより積極的に実施する。 ②SC、SSW、スクールメンターの役割について周知を行うとともに、児童相談所などの活用できる外部機関との連携をさらに進める。	①学校生活において、生徒に自らを律して行動させ、指導件数の減少につながったか。交通事故の件数が減っているか。 ②SC、SSW、スクールメンターとの情報共有、ケース会議、児童相談所やフードバンクを含めた外部機関との連携などを実践できたか。	①令和7年度の2月20日時点での指導件数は99件であり、令和6年度の81件より大幅に増加している。同じ生徒が短い期間の中で同様・別件で指導を受けることが増えており、離学に至るケースが増加している。例年4月当初に「人間関係」に関する揉め事が多いため、職員による注意喚起・啓発を様々な場面で行った。 ②SC、SSWと教育相談担当で木曜日1校時に情報共有の場を設定し連携した。ケース会議は4件実施し、該当生徒への対応について協議した。総合教育センターや市役所などの外部機関への接続も行った。児童相談所には23件繋がりを、支援を継続している。	①遅刻件数、欠席数をはじめ授業へ向かう姿勢に未成熟なところもあつたため、繰り返し強い指導を行う。一方で、盗難被害も頻発しているため、授業時分の巡回指導の徹底をする。来年度も人間関係づくりに係る指導を継続して行う。 ②SC、SSWへの相談件数は変わらず多い。特にSSWへの相談については、外部機関への同行訪問も含まれるため勤務時間の管理が難しい。外部機関への接続については、グループの職員だけでは難しいので、全職員が対応できる仕組み作りが課題である。	①特別指導件数などの課題に対して、職員が協働して対応している。生徒自身の自律性の向上と他者を尊重する姿勢の育成を目標に行ってきた。自転車乗車マナーについては継続して指導していただきたい。 ②SC、SSW、SMと連携し、教育相談の体制が整っている。人間関係で悩みを抱える生徒が多いため、関係性を作れるような取組を考えていただきたい。また、フードバンクを継続して実施してほしい。	①多様な課題を抱える生徒が在籍している。職員によるチーム支援・指導を続けており、課題の解決につなげることができている。また、校内外との連携も有効に機能している。今後も連携を続けていく必要がある。 ②教育相談において重要な生徒個々の特性の理解をチームで行うことにより、個に応じた支援を行うことができた。SC、SSW、SM、外部機関との連携を強化し教育相談体制を充実させていく。	①特別指導の事前防止、交通安全、ネット犯罪、人間関係トラブル等の防止に重点を置いた生徒指導体制を継続・充実させていく必要がある。教職員によるきめ細かい指導を継続していく。 ②相談・支援体制として、校内資源は可能な限り活用し、校外資源も必要に応じて連携して活用することを継続していく。
3 進路指導・支援	①基本的な生活習慣を確立するとともに基礎学力を伸ばし、個性を伸ばすキャリア教育を推進す	①生徒一人ひとりの個性を尊重しながら、社会的・職業的な自立に向けて、主体的に取り組めるキャリア教	①-1 各学年に適した進路支援ワーク・ツール等を活用し、学年に応じた主体的に行動する力を育成する。	①-1 進路支援ワーク・ツール等を活用し、学年に応じた主体的に行動する力を育成することができたか。	①-1 1学年(福祉について)2学年(沖縄について)3学年(進路について)それぞれが探究活動を行い、成果物を作成し全	①-1 1学年(福祉について)2学年(沖縄について)3学年(進路について)と毎年固定されているテーマを見直していく。	①-1 計画的な進路指導が機能している。進路発表会など様々な取組が成果を上げている。各学校から送られてきた案内を電子黒板で表示できるよう	①-1 様々なキャリア教育の取組により、生徒の個性を尊重し、社会的・職業的な自立に向けた指導、支援を行うことができた。一部の生徒に自身	①-1 すべての生徒が自身の進路選択ができるように、個別最適な進路学習を計画する。

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月24日実施)	総合評価(3月27日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	る。 ②通級による指導を実践し、特性による学習上及び生活上の困難の改善、克服をめざす。	育を推進する。 ②通級による指導や教育相談をはじめとした支援体制を充実させ、生徒一人ひとりに応じた支援を実現する。	①-2 外部連携を強化しながら進路支援プログラムの充実を図り、すべての生徒がより良い進路選択ができるように支援する。 ②生徒の特性等の情報を共有するとともに、SC、SSW、スクールメンターと連携した支援を行う。また、「NISE 学びラボ」を活用する。	①-2 外部連携を積極的に推進し、生徒の進路選択につなげる活動ができたか。 ②職員、SC、SSW、スクールメンター間の情報が共有されているか。「NISE 学びラボ」が活用されているか。	体発表することで、自身の発信力を高めることができた。 ①-2 各学年において年3回の進路ガイダンスを通して、進学・就職ともに幅広い選択肢から自身の進路について考えることができた。 ②SC、SSWと教育相談担当で木曜日1校時に情報共有の場を設定し、連携を取っている。SC、SSW間でも情報共有を頻繁に行い、相談ケースの接続を円滑に行った。生徒の面談終了後に担任、副担任への情報共有を円滑に行っている。必要に応じて管理職への報告も実施している。	①-2 進路ガイダンスで得た情報を自らまとめ、発表できるような取組をしていく。 ②職員、SC、SSW、スクールメンター間の情報をより効果的に行う。「NISE 学びラボ」の活用を推進していく。	にしたことの今後の成果に期待したい。総合的な探究の時間で、電子黒板を使用して進路について調べたことをクラス内で発表した。 ①-2 校外キャリア教育では、各学年段階で進路に対する意識を高めることができていく。また、進学先連携、企業連携により、生徒に有益な情報提供ができていく。 ②通級による指導を行うにあたり、SC、SSW、SMとの連携が取れている。チーム支援も効果的である。	の進路希望を決める時期が遅くなることもあり、すべての生徒に対し、キャリア教育に関する力を適切な時期に育てる必要がある。 ①-2 進路先連携、企業連携がうまく機能しており、今後も継続していく。 ②通級による指導や教育相談をはじめとした支援体制が整っている。生徒一人ひとりに応じた支援により、生徒の力を育てることができた。SSWへの相談件数は増え、外部機関への同行もあるので、相談しきれていないケースも出てきている。また、職員対象の人権研修として外国につながりある生徒に関する研修を実施した。	①-2 進学先連携、企業連携等の外部機関とのつながりの幅を広げる必要がある。 ②通級による指導、支援の体制が整っており、より良い方法を検討して実施する。また、今後も継続してNICE 学びラボを活用するなど、特性のある生徒に対する指導の研修を実施する。
4	地域等との協働 ①地域等との持続可能な協働活動を推進し、未来社会で生きる必要な力の育成と生徒活動の質の向上を図る。 ②PTAや地域等と連携して活動の場を充実し、地域社会と協働する意識を高める。	①生徒会活動・部活動・委員会活動を通じて地域社会の一員としての意識を醸成し、地域と共に歩む学校づくりをする。 ②PTA、綾瀬市や地域団体などの連携を図り、生徒が自主的に参加し、協働できる場の実現を図る。	①文化祭などの学校行事において地域と協働し、さまざまな活動を行うなど、生徒が主体的に地域と共に歩む自覚を生徒に持たせる。 ②PTA、綾瀬市や地域団体などと連携・協働する行事の幅を広げる。	①文化祭などの学校行事において、生徒の主体性を活かし、地域に対して働きかけを行うことができたか。地域と共に行う活動を実現できたか。 ②PTAや地域と協働する活動の実現を図ることができたか。	①文化祭において地域企業、綾瀬市役所、綾瀬市保存協会などの団体との連携を図った。また、デジタルパンフレットを作成し、地域団体を掲載するなど、生徒の意欲を引き出す取組を行った。 ②文化祭や陸上競技大会を通して、PTA 役員の方々と生徒との活動の場を充実させた。秋の防災訓練では綾瀬市との連携を図った。また、毎月2回程度ティサービスセンターへの施設開放を実施した。	①生徒が更に主体性をもって行事に取組むよう、参加方法など関わり方の検討が必要である。有志を募ったり、部活動や生徒会本部役員生徒とコラボレーションした企画を行ったりするなど、更に生徒と連携した催しが行えるよう努めていく。 ②PTAの花植えに生徒が参加できるようにするなど、PTA 活動への生徒の参加を検討する。施設開放を継続し、より充実した時間にする。	①文化祭での地域との交流は、生徒の自主性やコミュニケーション力を高めている。デジタルパンフレットやQRコード決裁など、学校DX関係をより充実させた活動を行った。 ②PTA 役員の魅力を高めて活性化してほしい。ティサービスセンターがあることは、この学校の特長であるので、今後も特色を活かしてもらいたい。	①地域社会の一員としての意識を醸成することができた。また、文化祭などを通じて、地域と共に歩む学校としての活動を行うことができた。企業と打合せをする中で、求人票の獲得につながるなど、進路面でも良い効果があった。生徒の部活動アンケート結果は、部活動が生徒にとって充実していることがわかった。 ②PTAや地域と連携して、生徒の活動の場を充実させ、地域社会と協働する意識を高めることができた。	①アドバンスタイムなども活用して、生徒が自主的・主体的に連携・協働する機会を増やしていく必要がある。多くの生徒が部活動を居場所の一つであると捉えており、さらなる部活動の活性化を模索する。 ②地域との交流をより広げていく必要がある。ティサービスセンターと関わる生徒は増えてきているが、メンバーの固定化について工夫していく。また、PTA 活動を持続可能なものにしていく方策を構築していく。
5	学校管理 学校運営 ①学校運営協議会委員等、地域の多様な人材の意見を集め、社会に開かれた安全で安心な学校づくりをめざす。 ②組織的、計画的、継続的に校内研修を行い、教員の資質と学校の教育力の向上をめざす。	①社会に開かれた安全で安心な学校づくりに向けて、学校運営協議会制度を活用し、教育活動の充実につとめる。 ②-1 教職員の支援教育や人権教育に係る校内研修を計画的に実施する。 ②-2 働き方改革を組織的に推進する。	①学校運営協議会において、意見聴取や情報収集の機会を設け、改善につなげる。 ②-1 研修の成果から、重点的な課題を絞り、共有を重ねることで、教職員のスキル向上を図る。 ②-2 働き方改革の指針を全職員が理解し、主体的に実践する組織づくりを推進する。	①学校運営協議会からの提案を整理、共有、実現することができたか。 ②-1 支援教育や人権教育に係る重点課題を共有し、生徒への支援を充実させることができたか。 ②-2 働き方改革への理解を向上させ、ウェルビーイングの向上につなげることができたか。	①学校運営協議会でいただいた意見をまとめ、校内で共有することができた。 ②-1 夏季休業中に職員対象の福祉研修を実施した。人権研修は「外国につながる生徒への支援」をテーマとした。外国につながる生徒がいる現状からも、職員の意識や知識の向上につながった。 ②-2 働き方改革の指針を職員が理解した。	①いただいた意見を実現できるよう、引き続き各グループや地域との連携を図る。 ②-1 夏季休業中の研修が多いため、研修の設定が難しい。人権研修のみならず、支援教育関係の研修の充実に向けて計画を立てる必要があるが、適切な講師を見つけることが難しい現状がある。 ②-2 業務分担を整理して、より働きやすい職場をつくる。	①学校方針としての理想は重要。また、学校との交流を望んでいる地域の方々との交流をより進めてほしい。 ②-1 職員人権研修を継続して行っていただきたい。 ②-2 職員の働き方改革を推進していただきたい。	①「一人ひとりが綾なす学校展開図」を作成して生徒の支援につなげた。社会に開かれた安全で安心な学校づくりに向けて、学校運営協議会を活用し、教育活動を改善・充実させることができた。 ②-1 教職員の支援教育や人権教育に係る校内研修を計画的に実施することができた。 ②-2 やむを得ず、長時間労働になりがちな時期や場面もあった。	①今年度の学校運営協議会委員からの意見を今後の学校経営に生かしていく。 ②-1 支援教育や人権教育の職員研修をさらに充実していく。 ②-2 働き方改革の結果として、生徒により良い教育体制や支援体制を提供していく。

